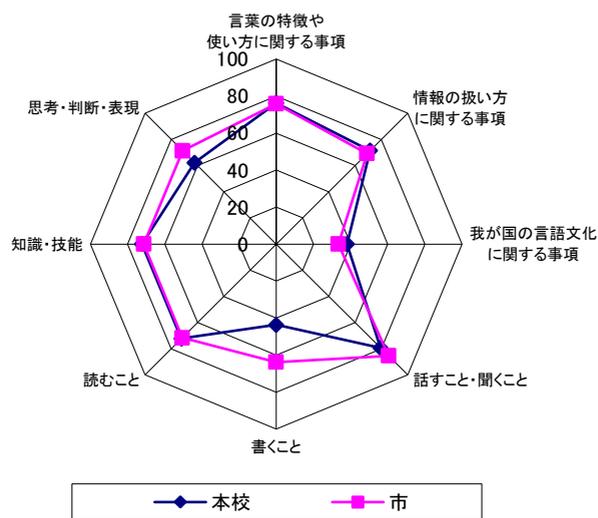


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.2	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	71.4	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	38.1	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	79.4	85.5	86.5
	書くこと	43.7	63.9	65.8
	読むこと	72.2	71.6	69.5
観点別	知識・技能	72.3	71.3	72.9
	思考・判断・表現	62.2	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

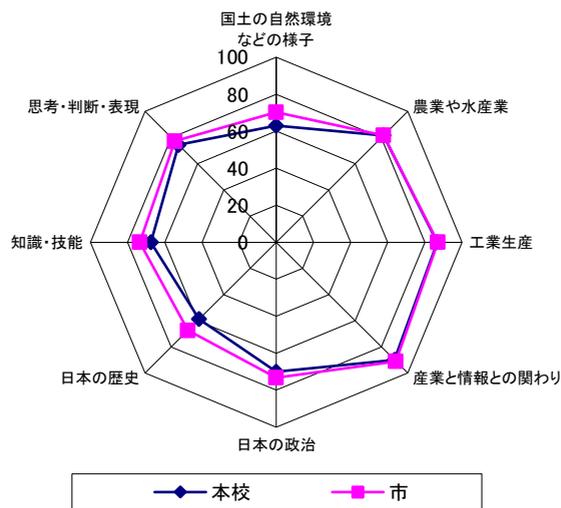
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は76.2%で、市の平均と同程度であった。 ○三語の熟語の成り立ちについて理解しているかの問題では、市の平均を13.8ポイント上回った。 ●敬語について理解し、正しく使う問題では、市の平均を11.2ポイント下回った。 ●5学年、6学年配当漢字を正しく読んだり書いたりすることには、個人差が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も漢字の部首やつくりのはたらきを正しく理解できるように、国語辞典や漢字辞典を活用しながら、学習できるようにする。 ・相手や場面に応じた敬語の使い方を考えさせる。また、相手の状況や気持ちに応じて言葉を選択することを、日常場面で指導する。 ・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習で取り組ませ、継続指導する。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は71.4%で、市の平均を2.3ポイント上回った。 ○原因と結果など、情報と情報との関係について理解しているかの問題では、市の平均を2.3ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを確認しながら、目的に応じて文を書くことや、お互い読み合うことの指導をしていく。 ・原因と結果、意見と根拠、具体と抽象、共通点と相違点など、情報同士の関係を捉えられるような指導をしていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は38.1%で、市の平均を4.6ポイント上回った。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかの問題では、市の平均を4.6ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語が、和語、漢語、外来語に区別されていることを学習することで、日本語への関心や諸外国との関わりについても興味をもち、理解が深まるようにする。 ・和語と漢語の違いは、由来と読み方にあることや、使われる場面についてであることを、対話的学習を通して考えさせる。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は79.4%で、市平均より6.1ポイント下回った。 ●意図に応じて、質問を工夫しているかの問題では、市の平均を8.3ポイント下回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかの問題では、市の平均を7.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動や学校生活の中で、一つの議題をテーマにして話し合うような機会を設けることで、話の重要なポイントを聞き取れるように指導し、「話す力・聞く力」の育成を目指す。 ・目的や相手に応じて効果的に伝え合い、相互理解を深める双方向の言語活動を取り入れ指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は43.7%で、市の平均を20.2ポイント下回った。 ●目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしているかの問題では、市の平均を31.7ポイント下回った。 ●文章全体の構成や展開を考えているかの問題では、42.9%で市の平均を22.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の行事や活動から、気付いたことや感じたことを作文にしたり、様々な構成や条件で文章を書いたりする機会を積極的に設け、伝わりやすい文章構成で書けるよう指導する。 ・「書く内容が見つけられない」「書き方が分からない」といった抵抗感をなくすために、文章の書き方の例を挙げて指導し、書くことへの自信をもたせる。 ・報告・記録文や紹介文の他に、自分の考えを事実や事例などの根拠とともに書く論説文や意見文を書く機会を設け指導する。 ・意見と根拠の整合性が取れた文章を書く指導もしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は72.2%で、市の平均と同程度であった。 ○物語の全体像を具体的に想像しているかの問題では、市の平均を5.7ポイント上回った。 ●説明文を読み、文章全体の構成を捉えているかの問題では、市の平均を5.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要旨を捉えるために、指示する語句や接続する語句に印を付けたり、キーワードやキーセンテンスに線を引いたりしながら、どの叙述に着目したのかを自覚できるようにする。 ・説明文の読み取りについては、事実説明と説得、筆者の意見や主張を意識して読むよう指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.0	70.3	66.4
	農業や水産業	81.7	81.6	75.3
	工業生産	86.7	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.0	91.0	81.3
	日本の政治	70.0	73.2	75.3
	日本の歴史	58.8	67.4	68.5
観点別	知識・技能	67.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	74.4	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

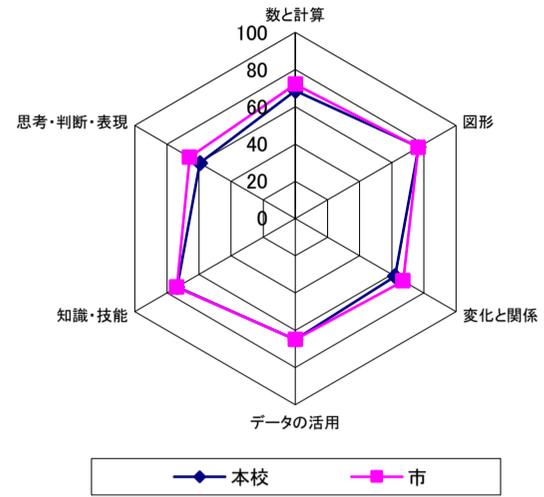
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は63.0%で、市の平均を7.3ポイント下回った。 ○近年日本で起きた自然災害の発生場所についての問題では、市の平均を14.7ポイント上回った。 ●日本の周辺の海洋の名称を理解しているかの問題では、市の平均を24.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○白地図や地図帳などを使い、太平洋、日本海、東シナ海、オホーツク海などの海洋名や位置関係を繰り返し確認する機会を設け、知識が確実に定着するようにする。 ●自然災害の発生場所について正しく理解できている。今後も、資料や地図を活用し、必要な情報を正確に読み取ることができるよう学習を進める。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は81.7%で、市の平均と同程度であった。 ○水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断する問題では、市の平均を5.1ポイント上回り、正答率は100%であった。 ●米の生産が盛んな地域について、地図を読み取る問題では、市の平均を8.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の食料生産について、資料から何が読み取れるかをじっくり考える場面を設け、現状と解決策について話し合うとともに、自分なりの考えがもてるようにする。 ●具体的な写真や図解を伴う資料の読み取り能力を、「地図読解」にも応用できるようにする。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は86.7%で、市の平均と同程度であった。 ○自動車の製造工程について理解しているかの問題では、市の平均と同程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車の製造工程を正しく理解していたことから、設問の意図に合った答えを導き出すことができたと思われる。引き続き、資料集などを効果的に活用していく。 ●製品の改良、自動化の工夫、環境への配慮(省エネ、リサイクル)に焦点を当て、人々の努力や技術向上が国民生活の向上に果たす役割を理解させる指導をしていく。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は90.0%で、市の平均と同程度であった。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均と同程度であった。 ●情報を生かした産業について考える問題では、市の平均を3.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットの危険性やルールについて正しく理解できている。今後も、身近な事例を資料として活用したり、専門家による出前授業を行ったりするなどして情報リテラシー教育と連携を図りながら学習を推進する。 ●情報を活用して消費者ニーズに応え、効率化を図る産業の姿を事例に学び、情報の収集や整理をしたり、発信したりする探究活動を通して、情報が社会に与える影響や課題を考える学習活動を取り入れる。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は70.0%で、市の平均を3.2ポイント下回った。 ○法律ができるまでの流れについて資料を読み取る問題では、市の平均を9.1ポイント上回った。 ●日本国憲法について理解しているかの問題では、市の平均を16.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内閣と国会や国民との関係について正しく理解できていたことが分かる。政治の仕組みについて考える機会をもつなどし、日本の政治制度についてより深く考えられるようにする。 ●日本国憲法の理解不足は、三大原則や権利と義務などについての知識が曖昧だったことが原因と思われる。国民の三大義務についても明確に理解できるよう、資料の提示方法やワークシートを工夫しながら学習を進める。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は58.8%で、市の平均を8.6ポイント下回った。 ○鎌倉幕府の政治の仕組みの理解をもとに、資料を読み取る問題では、市の平均を5.1ポイント、能について理解しているかの問題では、17.9ポイント上回った。 ●江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を判断する問題では、市の平均を21.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も歴史的事象にある背景や文化と、主な人物の業績について当時の様子やエピソードを取り入れながら理解できるように学習を進める。 ●江戸時代の禁教と鎖国について十分に理解できていないことが分かる。江戸時代の幕府政治や外国の文化や貿易について正しく理解できるように、鎖国を行った理由と貿易相手国との関係性を考えられるよう学習を展開する。そして、当時の外国とのつながりを深く理解できるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.6	72.1	74.6
	図形	76.7	76.5	76.1
	変化と関係	62.0	67.1	59.7
	データの活用	65.0	65.0	64.5
観点別	知識・技能	73.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	59.4	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

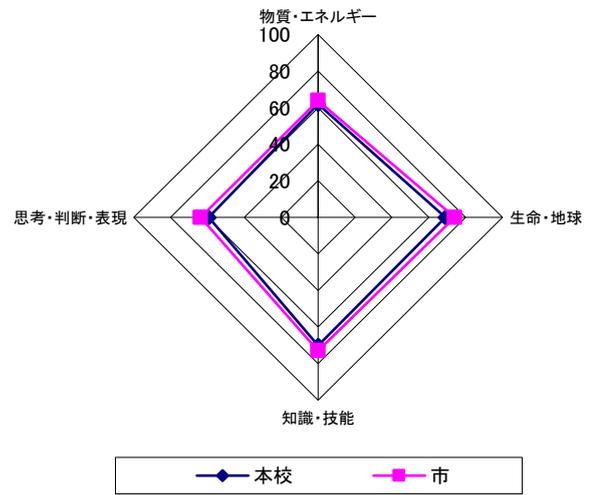
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は68.6%で、市の平均を3.5ポイント下回った。 ○真分数+真分数=真分数の片方の分母に揃えて通分する計算ができるかの問題では、市の平均を13.3ポイント上回った。 ●帯分数×真分数(約分2回)の計算ができるかの問題では、市の平均を20.2ポイント下回った。 ●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができるかの問題では、市の平均を20.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数の意味や大きさに着目させ、結果の大きさを見積もらせたり、分母が異なるときには通分を用いて計算することの理解が深まるように繰り返し指導したりしていく。 ・分数の計算結果は常に約分して、最も簡単な分数にするよう指導する。 ・小数の問題では、文章から数量の関係を数直線に書き表すことの定着に努め、図と式を関連付けた思考ができるよう指導していく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は76.7%で、市の平均と同程度であった。 ○点対称な図形の対応する2つの点を結んだ直線の長さについて理解しているかの問題では、市の平均を11.1ポイント上回った。 ●三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める問題では、市の平均を11.6ポイント下回った。 ●3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができるかの問題では、市の平均を11.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内角の和について計測活動を通して理解させるとともに、「外角」はどこを指すのか、辺の延長線との関係を視覚的に確認する学習活動を取り入れる。 ・図形を構成する要素を視覚的に捉えやすくするように、ICTも活用した授業を行う。 ・合同な図形は対応する辺や角が等しいことや、3つの情報を利用すれば作図することができるという見方を指導していく。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は62.0%で、市の平均を5.1ポイント下回った。 ○基準量と割合から、比較量を求めることができるかの問題では、市の平均を1.3ポイント上回った。 ●単位が異なるBセットとCセットを1ずつ買ったときの、ノート1冊当たりの値段を求める問題では、市の平均を11.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量あたりを求める計算では、身近な生活の中でたくさん出てくることを例に挙げ、問いの意味や解き方を考える機会を十分に設けていく。 ・基準量と比較量から割合を求める問題など、様々な問題に数多く取り組む機会を増やし、より確かな力がつくようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は65.0%で、市の平均と同じであった。 ○円グラフを正しく読み取ることでできるかの問題では、市の平均を8.3ポイント上回った。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明している問題では、市の平均を10.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み取り、情報を整理したり問題を解決するために必要な条件を考えたりして、平均などの既習事項を活用することで問題の解決ができるよう指導する。 ・読み取った内容を相手に伝えるように文章にする学習を積み重ね、記述式の問題に慣れさせていく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.9	63.8	61.6
	生命・地球	69.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	70.1	73.0	71.3
	思考・判断・表現	59.3	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は61.9%で、市の平均を1.9ポイント下回った。 ○ろ過の仕方で正しくないところを指摘する問題では、市の平均を13.1ポイント上回った。 ●うすい塩酸と炭酸水を見分ける実験の構想について説明する問題では、市の平均を13.2ポイント下回った。 ●引きつけたゼムクリップの数から、コイルの巻き数と乾電池のつなぎ方を推測する問題では、市の平均を11.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実験する前には今までの既習内容を思い出しながら仮説を立て、見通しをもって実験を行うようにする。 ●水溶液の学習では、水溶液の性質やはたらきの違いについて実験の結果を丁寧に確認するとともに、それらを関連付けながらチャート式に整理させるなどして、水溶液を見分けるための実験の構想を立てられるようにする。 ●4年で学習した乾電池のつなぎ方を復習するとともに、電磁石の強さと、コイルの巻き数や乾電池のつなぎ方との関係を表などにして整理する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は69.0%で、市の平均を5.1ポイント下回った。 ○心臓と血液の働きに関する問題では、市の平均を7.0ポイント上回った。 ●月の形や位置の観察方法を問う問題では、市の平均を22.5ポイント下回った。 ●葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える問題では、市の平均を16.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実験する前に条件制御をしっかりと確認してから実験を行うようにする。さらに実験結果について検討し、説明ができるようにする。 ●月の形や位置の観察など、各家庭で行う観察等についても、しっかりと計画を立てたり方法を確認させたりして、見通しをもって活動できるようにする。 ●日光を当てた葉にはでんぷんがあり、当てなかった葉にはでんぷんができないのはなぜか、「日光」に着目しながら予想と比べて考えるようにさせる。

宇都宮市立平石北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
日常的な「書く」「話す・聞く」活動の充実	ア 「朝の国語タイム」の実施 イ 本の感想やあらすじを作文する ウ 授業の振り返り、日常的な作文活動 エ 話し方や聞き方スキルの継続的な指導 オ 司書と連携した授業と読書指導の工夫	学習形態の工夫を図り、対話的学習活動を取り入れ、自分の考えを伝達したり表現したりする場を設け、思考力・判断力・表現力等の育成を図ってきた。学校図書館司書と連携を図り、図書資料を活用して情報を得る授業の展開を行ってきた。国語科において自分の考えを書き表そうとする姿勢は育ちつつあるが、条件に合わせて書いたり、根拠を基に自分の考えを表現したりすることについては、参考値と比べて下回る結果となり課題が残った。算数科においても、数学的根拠を基に説明する力に課題がみられ、参考値を下回る結果となった。
学習課題を明確にして深い学びのある対話的活動の工夫	カ 魅力ある学習課題の工夫 キ 学習形態の工夫 ク 教師のコーディネート力の向上 ケ 単元を貫く言語活動と児童が達成感を味わえる言語活動の場の設定 コ 授業と連携した図書資料の活用	

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・6年生は、市の調査結果と比してほぼ同程度の結果となったが、国の調査結果より下回る結果となった。4年生の算数は県の結果より下回る結果となったが、4年「国語」「理科」と5年生の結果は県の結果と同程度となった。

・学習内容定着度調査の結果、6年生国語の「目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にする」「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確に書く」ことに課題があり、「書くこと」の領域で市の平均を下回った。4～6年生において各調査結果から、全体的に思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題が残る傾向にある。

・学校課題と併せ、読解力（語彙力）の育成、書くこと、情報活用能力の育成に力を入れてきた。今後も、各教科において基礎・基本内容の習得とともに、得られた知識・技能を活用しながら、思考力・判断力・表現力等の育成を図っていきたい。

・十分に定着していない内容を洗い出し、フォローアップ問題やAI型学習等を計画的に活用したり、学力向上担当教諭と担任が密に連絡を取り合ったりしながら、基礎・基本の習得に努める。また、情報・資料活用能力が育成できるような学習活動の場を設定し、探求的な学習の充実も目指す。

・学習のねらいを共有し、単元を通して学びを自覚する振り返りの時間を確保し、学習に対する意欲の向上を目指す。また、将来や社会環境に関心をもてるよう授業展開の工夫を図る。

・国・市の調査において、「勉強が好きか。」という設問の肯定的回答の割合が市の平均を下回る学年があった。また、家庭学習の時間は下学年は市の調査結果と同程度や上回る結果となったが、上学年は下回る結果となった。高学年の平日の読書時間の肯定的回答も市の平均を下回る結果であり、動画等視聴の結果と反比例する結果となった。次年度も、「宇都宮モデル」をもとに授業を進め、児童が課題や見通しをもって意欲的に学習に向き合える態度を育成していく。また、家庭学習や読書活動等の個人学習への取組みについては、強化月間（週間）等を設け、賞賛したり範を示したりして、個人の成果が視覚的に認識できるような手立てを講じる。

・学校図書館を「読書センター・学習センター・情報センター」機能として活用できるよう、司書教諭や学校図書館司書と連携を図り、読書の質の向上を目指す。また、発達段階に応じた語彙力や表現力が伸ばせるよう計画的に読書指導も組み入れていく。